

令和 6 年度 神奈川県 英語教育改善プラン

目標

小・中・高の学びの接続に係る課題を明確にし、
確実な英語によるコミュニケーションの能力を育成する。

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の公表及び達成状況の把握

[公表]

R4 35.7%⇒R5 55.7%

[達成状況の把握]

R4 55.7%⇒R5 60.3%

②授業における、児童の英語による言語活動時間の割合

R4 89.2%⇒R5 92.1%

未だ改善が必要な点

①小学校教師の英語力の状況

R4 3.9%⇒R5 4.2%

②新規採用者に占める一定の英語力を有する者の割合

R4: 3%⇒R5: 3%
(R7年度目標50.0%)

2. 要因分析

①目標と指導と評価の一体化を図った授業についての理解が広まってきていることが要因であると捉えている。

②「言語活動」を通して指導することについての理解がさらに広まり、児童が英語を使用する授業が増えていると捉えている。

①十分な英語力をもつ教師数は依然として少ない。指導の接続性や継続性を保つために、小学校教師の英語力についても重視し、自信をもって外国語の授業が行える教員を増やしていくことが必要である。

②一定の英語力を有する者に対し、県教員採用試験における優遇制度を設けたことなどから割合自体は向上しているが、令和7年度の目標値までにはまだ大きな開きがある。

3. 目標を達成するための施策・事業

①「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の活用方法等の周知徹底

全県指導主事会議等で、好事例等を周知する。併せて、県事業である「かながわ学びづくり推進地域研究委託事業」の研究委託校で外国語教育に取り組む学校に対し、各学校の取組を踏まえた指導・助言を引き続き実施する。また、学区の中学校と「CAN-DOリスト」形式の学習到達目標を共有するなど、さらなる活用を促していく。

②「言語活動」を通じた指導の徹底

学校悉皆の研修として行っている英語授業力向上研修等を通じ、小・中・高の学びの接続の重要性について周知していくとともに、「言語活動」を通して指導する必要性や具体例等を引き続き周知していく。

①神奈川大学と連携した免許法認定講習の実施

年間28日の講習により中学校英語二種免許の取得を目指す講習を実施し、小学校外国語教育の中核となる人材の育成を図る。

②県教員採用試験の優遇制度を継続し、その内容については各採用試験説明会を通じ、周知する。さらに、教員志望者対象の「かながわティーチャーズ・カレッジ」を実施し、教員をめざす受講者の英語資格取得を促す。

令和6年度 神奈川県 英語教育改善プラン

目標

小・中・高の学びの接続に係る課題を明確にし、
確実な英語によるコミュニケーションの能力を育成する。

○CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合（R5：42.7%⇒R6：50.0%）

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の公表の状況
[公表]

R4 70.3% ⇒ R5 75.4%

②英語教育に関する小中連携の実施状況

R4 73.7% ⇒ R5 77.1%

未だ改善が必要な点

①生徒の英語力の状況

R4 47.0%⇒R5 42.7%

②教師の英語使用状況

R4 63.9%⇒R5 59.9%

③「英語の勉強は好きですか」の設問で肯定的な回答する児童・生徒の割合

[R5全国学力学習状況調査児童・生徒質問紙調査]

R5 69%(小)・R5 56%(中)

2. 要因分析

①「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の有用性について、理解が広がりつつあると捉えている。

②③小中連携の重要性について周知するなどした結果、理解が深まったと捉えている。一方で、(③から)小学生と比較すると中学生の肯定的な回答の割合が低いことから、英語学習に対する苦手意識や、小・中学校での指導の系統性が保たれていないことが原因の一つであると考え。小中連携を行ってはいるが、例えば、共通のカリキュラムを作成するなど実質的な連携につながっていない可能性があり、中学校が小学校の指導の実際について理解することで、授業改善につながると考える。

①昨年度と比較し数値が減少した。学校・地域間の差が大きいことから、各学校の目標設定の見直しや適切な達成度の見取りが必要である

②「英語による英語の授業」のねらいについて周知徹底を図るとともに、実際の英語使用場面を踏まえた言語活動への理解をより一層深める必要がある。

3. 目標を達成するための施策・事業

①全県指導主事会議での周知や、「かながわ学びづくり推進地域研究委託事業」の研究委託校で外国語教育に取り組む学校に対し、各学校の取組を踏まえた指導・助言を引き続き実施する。

②積極的に進めている市町村の具体的な取組について他の市町村に紹介する機会を設け、広く改善を図る。また、英語授業力向上研修や全県指導主事会議等を通じ、小・中・高の学びの接続について周知し、「言語活動」を通して指導する必要性や、共通したカリキュラム作成の具体例等を引き続き周知していく。

高校教育課と連携を進め、小・中・高の学びの接続に係る課題を明確にするとともに、各校種の指導の具体例について共有していく。

①MEXCBTを活用し、その指標を例示するなどして、生徒の英語力を適切に見とれるよう支援する。

また、パフォーマンステストの実践事例を共有するなどして、指導と評価の一体化を図った授業についてさらなる理解が深まるよう周知していく。

②「英語による英語の授業」の効果の周知

教師が発話の半分以上を英語で行う授業の実践例等を、全県指導主事会議等の機会を通じ、市町村間で共有できる機会を設ける。

③学校悉皆の研修として行っている授業力向上研修は、小中連携をテーマに開催する。言語活動を通して指導する等の視点から、小・中・高の学びの接続の重要性について周知する。

令和6年度 神奈川県 英語教育改善プラン

目標

小・中・高の学びの接続に係る課題を明確にし、確実な英語によるコミュニケーションの能力を育成する。

○CEFR A2/B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合

(R5 : A2以上 53.8%、B1以上 23.4% ⇒ R6 : A2以上 55.0%、B1以上 30.0%)

○スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合 (R5 : 44.0% ⇒ R6 : 66.0%)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒の割合が増加
(R4:52.8%⇒R5:53.8%)

②学習到達目標の整備状況(達成状況の把握)が改善
(R4:75.3%⇒R5:88.1%)

未だ改善が必要な点

①生徒の言語活動が昨年から減少した
(R4:56.7%⇒R5:54.7%)

②教師の英語使用が昨年から減少した
(R4:48.2%⇒R5:28.9%)

③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合
(R4:41.6%⇒R5:30.2%)

に引続き改善の余地がある。

2. 要因分析

①②各学校において、到達目標(CAN-DO)を意識した「指導と評価の一体化」の視点からの授業改善に取り組み、育成すべき資質・能力の明確化に努めた結果と考えられる。

①生徒の英語力をペーパーテストのみで評価するなど、「外国語」の目標及び適切な評価方法についての理解が不十分なことが要因と考えられる。

②教師が自分自身の英語使用が生徒の言語活動に与える影響力について実感できない指導に留まっていることが要因と考えられる。

③到達目標に即した評価で「適切な評価の手立て」がなされていないことが要因と考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

①②③
「指導と評価の一体化」の推進
全県立高等学校等(136校、154課程)が作成した「単元の指導と評価の計画」について点検や学校訪問を通じて、各学校へ個別のフィードバックを行う。

①②
英語教育推進の中核的人材の育成の推進
英語教員海外研修実施事業(TESOL研修)にて、公開研究授業等を通じた成果の普及を行う。

①①③
スピーキングテストとライティングテストの実施を増やす
教育課程研究推進委員等の実践事例を教育課程説明会にて紹介する。

※いずれの取組においても、小学校及び中学校での学びや現状を伝え、資質・能力ベースでの学びの接続を意識させるとともに、生徒のコミュニケーション活動が主体となる授業実践の取組を推進していく。

神奈川県教育委員会

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		55.0	53.8	55.0		56.0		58.3		60.0	
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		30.0	23.4	30.0		32.0		34.0		35.0	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）		60.0	54.7	60.0		70.0		75.0		80.0	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合（％）		66.0	30.2	66.0		70.0		75.0		80.0	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100.0	100.0	100.0		100.0		100.0		100.0	
		公表（％）	100.0	90.9	100.0		100.0		100.0		100.0	
		達成状況の把握（％）	100.0	88.1	100.0		100.0		100.0		100.0	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）		75.0	79.1	80.0		80.0		80.0		80.0	
	⑥英語担当教員の授業における英語使用状況（％）		70.0	28.9	70.0		70.0		70.0		70.0	

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		50.0	42.7	50		55		60		60	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）		75.0	71.2	75		80		80		80	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合（％）		100.0	96.6	100		100		100		100	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100.0	92	100		100		100		100	
		公表（％）	80.0	75.4	80		90		100		100	
		達成状況の把握（％）	80.0	71.4	80		80		80		80	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）		50.0	44.9	50		50		50		50	
	⑥英語担当教員の授業における英語使用状況（％）		74.0	59.9	65		70		75		80	

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	80.0	76	80		82		84		85	
		公表（％）	40.0	55.7	50		55		60		65	
		達成状況の把握（％）	60.0	60.3	62		63		64		65	